

## 第8回 佐太神社の神在祭

旧暦10月は出雲に神々が集うことから、一般に神無月と呼ばれ、神々が集う出雲では、逆に神在月と呼ばれています。そして、松江市内の佐太神社、神魂神社、多賀神社、売豆紀神社をはじめ出雲地方9社で神在祭が行われています。近世には、これらに加えて、六所神社、真名井神社、熊野大社などでも行われていたようです。

### 神在祭(神等去出神事・佐太神社)



さて、なぜ神々は出雲に集うと信じられたのでしょうか。これは神社により、また同じ神社でも時代によってその考え方は異なっていたようです。ここでは佐太神社を例にとって簡単に紹介しましょう。中世から近世の佐太神社の主祭神はイザナミです。このため、少なくとも中世末から近世にかけて、当社の神集いの理由はイザナミを主体に構成されていました。すなわち、イザナミは、10月に出雲で崩御し、当社の宮山に埋葬された。イザナミはすべての神の母神であるので、神々は、崩御した10月、埋葬された出雲に、孝行のために集うというものです。誤解を恐れずにわかりやすい言葉で言えば、神々はいわば法事のために出雲に集まると考えられていたのです。イザナミを祀る神魂神社や熊野大社などでも同様に考えられおり、とりわけ神魂神社では、現在でもこの考え方をもとに、神在祭が行われています。そういえば、佐太神社、神魂神社、熊野大社周辺には、イザナミの埋葬地としての比婆山伝承地があります。このことは、各社の神在祭と何らかの関係がありそうです。



神在祭裏月祭(神迎神事・佐太神社)

ところで佐太神社の主祭神は明治になると佐太大神に戻ります。そのため、イザナミを主体とした神集いの理由は想定し難くなります。そこで積極的に主張されるようになったのは、新(神)嘗祭(その年に取れた収穫を祝う祭)のために神々が集うとするものです。つまり、神在祭は『出雲国風土記』に記されるカンナビ山(朝日山に比定)に神々が集って新穀を捧げたとされるカンナビ山祭にその起源が求められるようになったのです。このような考え方の背景には、カンナビ山の近くに、神在祭が行われる多くの神社が鎮座していることがあります。また、秋に新嘗祭が行われるためには、その前提として、春にその年の豊作を祈る祈年祭が行われることが想定されます。実際、現在は佐太神社のみですが、4月(現在は5月)に神在祭(神在祭裏月祭)が行われているのです。つまり、祈年祭と新嘗祭がセットになっているのです。佐太神社の神在祭裏月祭は、10月(現在は11月)とほぼ同じ内容で行われています。機会があれば、伝統ある神事を、静かに眺めてみるのはいかがでしょうか。

(平成 23 年 5 月 2 日 民俗部会 品川知彦)